

# 青年海外協力隊員レポート

青年海外協力隊員の保育士として、エジプトで活躍されていた前田房美さんの体験や感想を、11月号からご紹介していきます。

今回は、エジプトの保育園・幼稚園事情のレポートです。

エジプト・レポート②

前田 房美（北川原）

## 保育園・幼稚園事情

保育園・幼稚園といえれば必ずあるのは砂場。しかし、エジプトにはほとんどといっていいほどありません。汚れることをとても嫌い、砂・泥んこあそびなんてもってのほかです。南国ですが、イスラム教ということもあってか水遊び・プール遊びがありません。

夏は日差しがきつく、冬は冬で寒いからと、外遊びもほとんどありません。もっぱら文字や算数のお勉強中心です。ここでの保育士は「指導する人」なのです。

エジプトにはイスラム教徒が約8割、その他コプト（キリスト教）などいますが、私の活動先はイスラム教徒ばかりで、必然的に生活の中でもっとも大事にされているのがイスラム教の教えでした。コーランの指導は毎日必ず行われ、

2歳の子どもたちでさえも床におでこをくつつけて「アラーは偉大なり」とお祈りごっこをするほどです。

生活の基本がイスラムであり、いけないことをしてしかりるときも「そんなことしたらロッベナ（私たちの主）が怒るよ。」で全て片付けられ、「相手がどんな気持ちか考えて：だからしてはいけないんだよね。」ではなく、全てイスラムの教えのもとに成り立っていました。そしてまた、現地の子どもたちにしてみれば、女性が発の毛をスカートで隠さず、半そでの服で生活していることさえも「なぜ？」であり、生後2日〜1週間で女の子は耳にピアスをつける習慣の中で、ピアスをしていない私の子どもたちに「男の子？女の子？」とまじめに質問された

こともありました。日本の常識はここでの非常識であり、ここでの常識は日本の非常識であり、今までの自分の考えが覆されることがおもしろく、新鮮な日々でした。

驚きはほかにもたくさんありますが、初めに覚える単語は「まんま（ごはん）」より先に「マイヤ（水）」だったり（暑い国では水は必需品なのです）、仕事よりも何よりも家族との時間を大事にするお国柄のあらわれか、日本では泣くときはたいいてい「ママー」ですが、「ババ（お父さん）」がとて多かったです。同じ職場の同僚も「今日は娘の誕生日だから」と早退したり、「中学生の子どもたちが試験だから」と1週間くらい休みをとったりしていました。ま



▲住んでいた部屋からの朝日です。手前がスエズ運河、奥が地中海です。

▼友人の婚約式の時にモスクの前で



た、子連れで出勤する人も多く、日本じゃ考えられないことで少しうらやましいくらいでした。

その他、ここでは習慣として食後にだけ手を洗います。スプーンも使いますが、手づかみで食べることも多く、手が汚れるからということもありませんが、それでも子どもたちはたくましく、免疫がついているのかお腹なんて壊しません。手洗いしなくて良いということではありませんが、除菌製品ばかりが店頭にならび、園においても徹底した衛生管理のもとに運営されている日本を思うと、守られすぎて育った子どもたちの今後はどうなるのだろうか、エジ

▼コーランのお勉強中です。腕を組んで真剣です。



プトでたくましく育っている子どもたちを見ていると、逆に心配になってしまいます。

私の活動は、保育士への指導・教材作成・環境整備などがメインとなっていました。が、国・言葉の違いを越えてもやはり相互の信頼関係のもとでなければ何もしません。イスラム教徒の思い・生活などを理解し、信頼関係を作っていくことが何よりも大事な活動でした。そして現地の人たちとともに相談し、悩みながら作り出していくことに充実感を覚える日々でした。また、私の活動先はモデル園に指定されているだけあって、園庭・保育室も広く、木製の玩具も取り入れており、うら